

段ボールの新たな価値を創造 地域連携で活性化に貢献

納期相談
試作可
小ロット



「ダンボール紙相撲大会」四條畷神社にて

業務内容 段ボール製品をワンストップで 地域活性化にも貢献

産業用・緩衝材用の段ボールの製造、販売を主力事業とする。メーカーや卸売業者で需要がある大きな外装箱から、小売店に引き渡される際の内装箱までさまざまな大きさ、厚みなどに対応する。平成26年に中小企業庁の「ものづくり補助金」で導入した最新のCAMシステムで、迅速な試作品提案もでき、見本から製品までワンストップで提供する。箱だけでなく段ボール製の間仕切りや緩衝材も環境意識の高い顧客に定評がある。

段ボール素材で地域活性化にも一役買っている。近隣の保育園や地域のイベント会場などに段ボール製の迷路や紙相撲などを提供し、産学公民連携も積極的に行っている。

強み トレンドに合わせた対応で 顧客のニーズに応える

紙パッケージ業界の多くは、専門分野に特化して量産し、コストを下げる傾向にあるが、同社は化粧品やバス・トイレタリー商品（シャンプー、リンスなど）をコンビニやドラッグストアに納品するなど中小ロットの需要がある顧客をメインに、トムソン箱から外装箱までの企画、設計、試作、印刷、加工までを一貫して行える強みを持つ。

CAMシステムの導入により、顧客毎のスピーディな試作品提案が可能になり、商品サイクルが短い化粧品業界などにも柔軟な対応ができるようになった。段ボール業界では珍しい地方への発送や、小ロット注文への対応もしている。

産学 産学官民コラボ事業 段ボール屋さんのまちおこし

平成23年から、地域活性化を目的とした産学公民連携の取り組みも積極的に行う。

大阪欄間工芸協同組合、大阪工業大学知財PR隊と協力し、大阪の伝統工芸「大阪欄間」を段ボールで再現する「ダンボール欄間」を制作し、同大学の学園祭などで展示したほか、大阪府の四條畷市役所との連携で、地域のお祭りにて「ダンボール紙相撲大会」を実施。また環境保護団体との協力で「ダンボールコンポスト（堆肥）スタートキット」の開発にも成功した。まちおこしに参加しながら、子供の知育用品やエコ製品を開発するなど新たな事業を展開している。

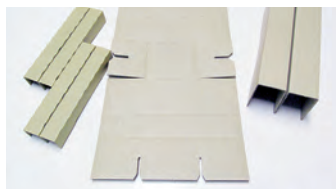
今後の展望 提案型営業で 新たな事業での売り上げ増を狙う

産業用以外の分野での製品開発や販路拡大に力を入れる。近い将来、産業用段ボール以外の売り上げで年間1,000万円以上を目指す。

平成24年から自社ホームページで「紙相撲」をアピールし、商業ビルや国際空港などのイベントの引き合いも増えた。製品をブラッシュアップし、ネット販売の販路も構築する。地域連携で築いたネットワークを大切に、大学などに連携を提案するなど待ちの姿勢ではなく「提案型営業」を積極的に行う。技術とノウハウを生かし、将来的に商業・公共施設などからのワークショップの依頼なども受けられるよう、取り組みを広めていく。



「大阪欄間」と「ダンボール欄間」



段ボール緩衝材ブロック

当社の歴史



昭和36年、創業者である父の田村仁が段ボール型抜き業を始め、昭和45年には現在の場所に本社を移転。印刷・型抜き・接合の一貫設備を持つ会社に成長しました。創業から半世紀以上「段ボール素材で社会に貢献する」をモットーに、産業用のみならず地域の保育園や学校、お祭りなどへの協力も積極的に行っています。

代表取締役 田村 耕作さん

<http://www.toyoshiko.jp/>

主な事業内容

段ボール箱製造業、エコ素材
段ボールを活用した製品開発

主な取引先(納入先)

化粧品メーカー、ヘアケア
用品メーカー、住宅内装材
メーカー、食品会社、電気
部品メーカー

●住所 〒575-0053
四條畷市
大字中野491
●TEL 072-878-5541
●FAX 072-878-9397
●創業 昭和36年2月
●設立 昭和40年8月
●資本金 1,000万円
●従業員 24名